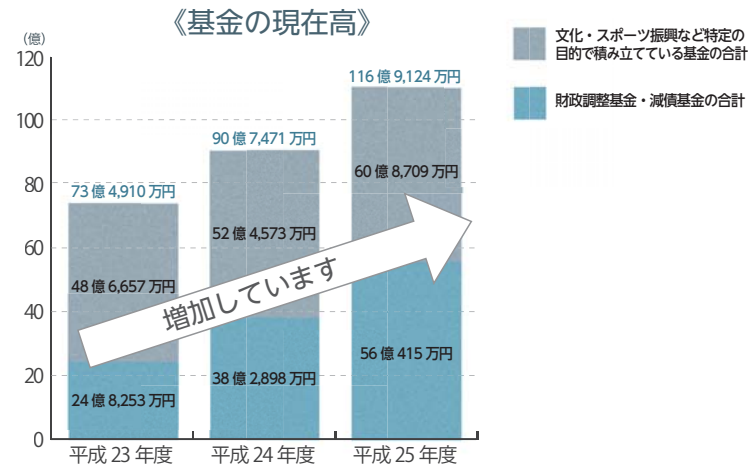


## 市の貯金は116億9,124万円です！

市の貯金に当たる「基金」は、災害発生等の緊急時の対応や教育・文化の振興、住民福祉の向上などのために積み立てて活用しています。

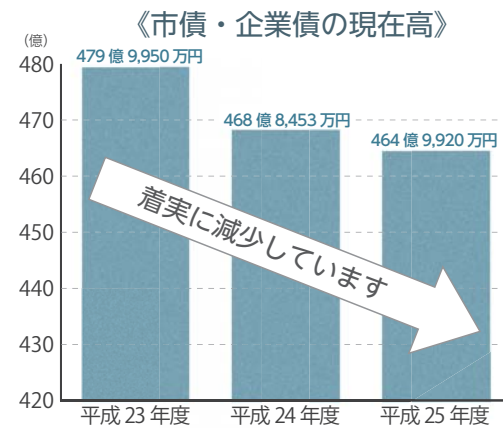
平成25年度は、将来の支出に備えて財政調整基金と減債基金で17億7,517万円の積み増しなどを行いました。これに、文化・スポーツ振興など特定の目的で積み立てている基金を合わせると、全体で26億1,653万円の増となり、平成25年度末の基金残高は、116億9,124万円となっています。市民一人当たりで換算するとおよそ18万5千円となります。



## 市の借入金は464億9,920万円です！

学校や図書館、道路などを建設するには多額の費用が必要なことから、借入金を活用しています。これらの施設は長年にわたり使用するもので、次の世代を含め、使う人みんなが公平に負担してもらうことが借入れをする大きな理由の一つです。

平成25年度末の残高は582億9,486万円ですが、後年度に国から地方交付税でまかなわれる臨時財政対策債を除くと実質464億9,920万円です。市民一人当たりで換算するとおよそ73万6千円となります。



## 計画的な繰り上げ返済を行っています！

合併前の旧4市村では、借入金を有効に活用して道路や下水道、福祉・教育施設などの整備を行ってきましたが、借入金の残高が増え、返済の負担が重くなっていました。

財政健全化のためには、大きくなり過ぎた借入金の残高を減らすことが必要です。そこで市では、計画的な借入れと返済を行うとともに、市税や補助

金などの収入確保と事務事業の見直しなどの経費節減に努め、捻出したお金で繰り上げ返済を実施してきました。

繰り上げ返済のメリットは、翌年度以降の利子が節約できることです。利子節約分で捻出した財源は、市民福祉の向上に活用することができます。

今後も将来にわたり安定した行政サービスを市民の皆さんに提供できるよう、健全な財政運営に努めていくワッツ。



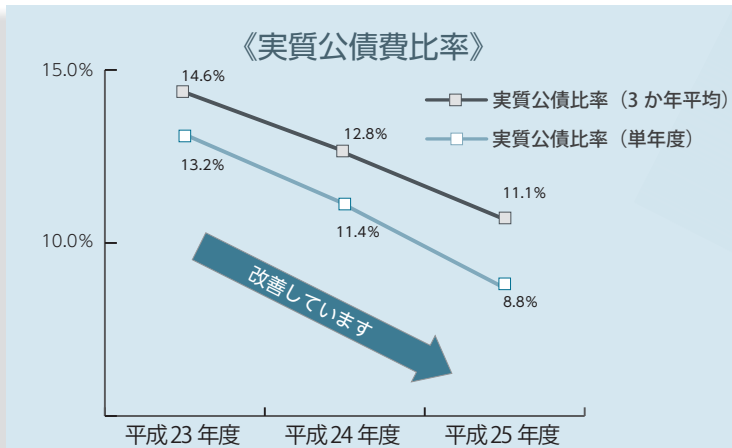
# 市の財政状況を公表します



しらかわん ガライザー 小峰シロ

皆さんから納めていただいた税金などのお金がどのように使われているのか、また、市の貯金や借入金はどれくらいあるのかなどを知っていただくために、市では、毎年6月と12月に財政状況を公表しています。今月号では、現在の財政状況と平成25年度決算の概要をお知らせします。

## 財政状況が改善しています！



国が示す4つの指標(実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率)で、市の財政の健全性を見てみましょう。



## 実質公債費比率が大幅に改善しました！

収入に対する借入金返済額の割合を示す実質公債費比率は、3年平均では11.1%となり、前年度と比較して1.7ポイント改善しました。

## 【健全化判断比率 (平成25年度決算)】

指標	内容	白河市	早期健全化基準 (IIO-カード)	財政再生基準 (レッドカード)
実質赤字比率	一般会計 <sup>※1</sup> を中心とした赤字の割合	赤字なし	12.62%	20%
連結実質赤字比率	一般会計、特別会計 <sup>※2</sup> 、企業会計 <sup>※3</sup> のすべての会計の赤字の割合	赤字なし	17.62%	30%
実質公債費比率	年間の借入金返済額の割合	11.1% (3年平均)	25%	35%
将来負担比率	将来負担が見込まれる負債の割合	88.5%	350%	

※1 一般会計 教育や福祉、道路整備などを行う行政の基本的な会計

※2 特別会計 国民健康保険や公共下水道事業などを行うために一般会計と区別している会計

※3 企業会計 水道など、民間企業と同様に利用料金などの収益で運営している会計

財政健全化が進み、市の「健全化判断比率」は、いずれも国の基準内。これからも健全化に取り組んでいくぜ。



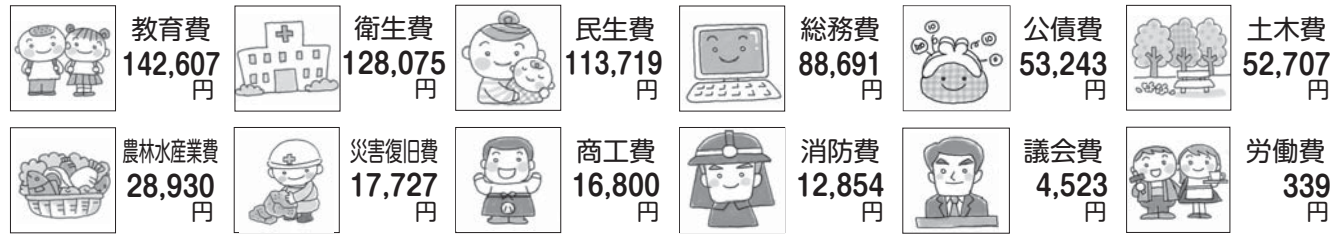
## 【1人当たり・1世帯当たりの市税の負担と使われたお金】

1人当たりの  
市税の負担額 **130,710円**  
使われたお金 **660,215円**  
(うち除染対策分 103,735円)

1世帯当たりの  
市税の負担額 **344,800円**  
使われたお金 **1,741,578円**  
(うち除染対策分 273,642円)

※平成26年3月31日現在の住民基本台帳人口・世帯数で算出  
人口 63,204人  
世帯 23,960世帯

《1人当たりに使われたお金の内訳》 ※歳出決算額を行政の目的別に分類し、1人当たりの額を算出したものです。



## 特別会計

特別会計は、特定の収入で特定の事業を実施するための会計です。一般会計と区別することで、それぞれの事業の収支や運営実績を明確にすることができます。市には、国民健康保険や公共下水道事業など、14の特別会計があります。

区分	歳入	歳出	差引
国有林野払受費	18万3千円	18万3千円	0円
教育財産	49万4千円	49万4千円	0円
小田川財産区	56万7千円	56万7千円	0円
大屋財産区	139万7千円	139万7千円	0円
樋ヶ沢財産区	17万8千円	17万8千円	0円
土地造成事業	2,077万円	2,077万円	0円
国民健康保険	74億6,304万7千円	68億7,001万1千円	5億9,303万6千円
後期高齢者医療	5億3,370万9千円	5億2,958万7千円	412万2千円
介護保険	47億3,004万6千円	46億1,558万2千円	1億1,446万4千円
地方卸売市場	2,314万3千円	2,314万3千円	0円
公共下水道事業	26億3,350万5千円	26億3,005万3千円	345万2千円
農業集落排水事業	14億6,630万5千円	14億6,630万5千円	0円
個別排水処理事業	8,841万7千円	8,841万7千円	0円
簡易水道事業	5億3,183万2千円	5億2,238万2千円	945万円
合計	174億9,359万3千円	167億6,906万9千円	7億2,452万4千円

### 【水道事業】

区分	歳入	歳出	差引
収益的	10億2,689万7千円	9億2,011万1千円	1億678万6千円
資本的	2億2,702万8千円	6億3,362万1千円	△4億659万3千円

※収支の不足分は、内部留保資金等で補てんします。

### 【工業用水道事業】

区分	歳入	歳出	差引
収益的	4,298万4千円	4,298万4千円	0円
資本的	6億3,109万2千円	6億3,903万9千円	△794万7千円

※収支の不足分は、内部留保資金等で補てんします。

## 企業会計

企業会計は、地方公共団体が社会公共の利益を目的に経営する地方公営企業の会計です。主に、利用者が支払う料金収入で事業を行っています。

◇市の財政についてもっと知りたい方は、市ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/>  
《くらしのインデックス → 地域づくり・行政 → 財政》

☎本庁舎財政課 ☎1111 内2332

詳しく見れるワンツ。



## 平成25年度決算の状況

### 一般会計

一般会計は、教育や福祉、道路整備など、市の行政運営の基本的な事業を行う会計です。平成25年度の決算は、歳入総額441億7,161万2千円に対し、歳出総額417億2,822万円で、差し引き24億4,339万2千円の「黒字」決算となりました。なお、翌年度に繰り越す事業の財源11億3,893万1千円を差し引いた実質収支額は、13億446万1千円でした。これは平成26年度の借入金の返済と貯金の積み立て等に活用します。

**歳入総額**  
**441億7,161万2千円**  
前年度比 **9.2%増**  
(除染対策交付金を除いた額)  
376億1,799万9千円

地方交付税が減少し、財源の確保が困難な状況の中で、震災復興特別交付税、国・県支出金等を確保することにより、震災からの復興・再生を目指した事業を推進しました。

**歳出総額**  
**417億2,822万円**  
前年度比 **11.0%増**  
(除染対策事業費を除いた額)  
351億7,175万1千円

うち除染対策交付金  
65億5,361万3千円



※1 地方譲与税・交付金  
国や県が徴収した税から一定の割合で配分される交付金

※2 災害復旧費 災害によって生じた被害の復旧など  
 ※3 土木費 道路の舗装や維持補修、河川や公園の維持管理など  
 ※4 その他 農林水産業費、消防費、商工費など